



大宮キャンパスWelcome Lounge



深草キャンパスWelcome Lounge



瀬田キャンパスWelcome Lounge

各キャンパスに 新たな交流空間誕生

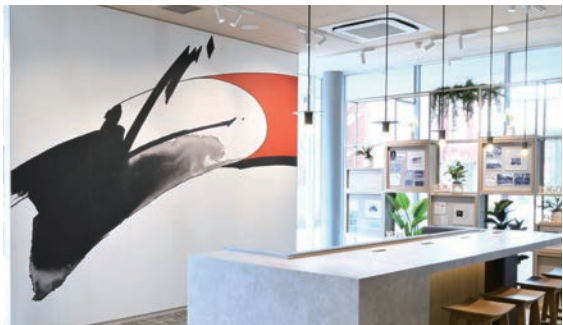
龍谷大学を体験する空間「Welcome Lounge」誕生

龍谷大学では、長期計画「龍谷大学基本構想 400」に基づき、各キャンパスで交流と学びを深める場の整備を進めています。その一環として、深草キャンパス和顔館 1 階と大宮キャンパス東翼 1 階、瀬田キャンパス智光館 1 階に「Welcome Lounge」がオープンしました。

中高生や地域住民、企業関係者、そして卒業生など多様な来訪者を迎え入れ、在学生の日常利用にも対応する「龍谷大学体験空間」として位置づけられています。ラウンジには、誰もがリラックスして過ごせる落ち着いた空間が広がり、龍谷大学の歴史・伝統・ブランドを紹介する展示を配置。

大宮キャンパスでは、貴重書や重要文化財をモチーフにした展示や、龍谷ミュージアムの資料を集約したボックスが設置され、文化と学びが交差する空間となっています。深草キャンパスでは、一六三九年から現在までの歩みを写真やパネルで紹介し、建学の精神やサステナビリティの取り組みも学べる空間です。

瀬田キャンパスでは、歴史や建学の精神など本学の伝統を感じるパネル展示や、「龍谷の森」で採種した素材を粉碎し、琵琶湖の水を絵の具に混ぜ込んで描いたウォールアートやインテリアを展開しており、里山の息吹を感じる空間となっています。偶然の出会いから新たな発見や共感が生まれ、龍谷大学の魅力を自然と体感できる場として、Welcome Lounge は卒業生にとっても龍谷大学とのつながりを再確認できる拠点となるでしょう。



深草キャンパス ウォールアート

Ryukoku Univ. Alumni News No.103

龍谷大学 校友会会報



〔校友総数 230,000名〕
2026(令和8)年9月30日
第103号
発行＝龍谷大学校友会
編集＝校友会広報部会
https://www.ryukoku.ac.jp
京都市伏見区深草塚本町 67
龍谷大学内
校友会事務局
TEL075-645-2015 FAX075-645-2017

- ◎ 校友会賞、龍 Ron 小町、龍谷大学の歴史実証 2 面
- ◎ 特集 深尾副学長に聞く 3 面
- ◎ 特集 龍谷奨励賞受賞者の今、校友総会 4、5 面
- ◎ クリエイティビティとクリエイティブティ 6 面
- ◎ ピックアップ SNS 7 面
- ◎ 支部の活動、コラム、仏教パズル 8 面
- ◎ 仏教に学ぶ、校友のお店 8 面

龍谷大学校友会「心理士支部」設立

2月21日、龍谷大学校友会心理士支部が設立されました。

当支部は、公認心理師、臨床心理士、またはこれに準ずる心理専門職の資格を有し、心理支援、心理教育、メンタルヘルス等を目的とする実践または研究に従事している、またはしていた校友会会員、あるいは当事者団体、市民団体、ボランティアグループ等において心理的支援活動に携わるまたは携わっていた校友会会員で構成された支部です。

大宮キャンパス黎明館において約70名の卒業生、先生方、現役学生、退職された指す学生さんたちと共に学び合い、支え合う場として活動していきます。

心理士支部は学生時代からのつながりが深いことが特長です。今後も卒業生と心理専門職の資格取得を目指す学生さんたちと共に活動していきます。



入会などのお問い合わせはこちらへ。
syu.666.goodluck@gmail.com



熊本地震ならびに千葉県の大震災により犠牲となられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。皆さまが一日も早く安心して日々を過ごされますことを心より念じ申しあげます。

龍谷大学校友会 会長 赤松 徹真

2026年度 校友会の主な事業

- ◆ 校友音楽祭 10月11日(日) 14:00~16:00
深草キャンパス (顕真館) 参加費無料、申込み不要
- ◆ 2026年度ホームカミングデー
◎ 瀬田キャンパス 10月24日(土)
先端理工学部に触れる体験型イベントと農学部に触れる講演会を開催します。
- ◎ 深草キャンパス 11月1日(日)
※ 龍谷賞贈呈式も同日開催 いずれも参加費無料、申込み不要
- ◆ 龍谷大学心の講座 11月28日(土) 13:00 ~ 15:30
大宮キャンパス「東翼101教室」
＜第1講＞木越 康氏 (大谷大学学長)
＜第2講＞安藤 徹氏 (龍谷大学学長) 参加費無料、要申込み
- ◆ 第14回煩惱とクリエイティビティ・12月5日(土) 15:00 ~ 16:30
＜ゲスト＞円城 塔氏 (作家) 参加費無料、要申込み
- ◆ 全国校友会大会 in 四国 12月19日(土)
要参加費、要申込み (先着順にて締切)
～世界記録へ挑戦！四国のうまいもん！踊りの懇親会～

龍谷ミュージアム

秋季企画展 「みんなおいでん！ 東三河の普門寺さん」

愛知県豊橋市東部に位置する船形山普門寺。1300年に及ぶ長い歴史のなかで守り伝えられてきた、貴重な仏像や歴史資料の数々をご紹介します。

- ◆ 会 期：2026年9月19日(土)～11月23日(月・祝)
- ◆ 休館日：月曜日(ただし、9月21日、10月12日、11月23日は開館)
9月24日(木)、10月13日(火)
- ◆ 開館時間：10:00～17:00 ※ 入館は16:30 まで
- ◆ 入館料：一般 1,200円
- ◆ 問い合わせ：龍谷大学 龍谷ミュージアム
TEL 075-351-2500
https://museum/ryukoku.ac.jp



龍谷ミュージアム 無料で優待券

期日：2026年11月23日(月・祝)まで
(同伴者1名を含め
無料でご入館いただけます)

龍谷大学法学部同窓会

2026 リユニオン

～つながろう、これからも～
日程：2026年11月14日(土)
場所：京都東急ホテル
◆ ゴルフコンペも開催！
日程：12月5日(土)
詳細はこちらから→



学生の課外活動を応援するオンラインチャリティイベントに今年も参加決定！
詳細はこちらから→



第26回 校友会賞受賞者

課外活動などで顕著な成績を上げ、龍谷大学発展の気運を盛り上げた在学生に対して、その功績を称え、表彰しています。



化・スポーツ・ボランティアなどの分野で、多大な成果を修めた学生・団体を表彰しています。今年度は、全国・国際レベルで活躍した4組が受賞されました。(学年は25年度)

【個人の部】

伴 遼典さん

(国際学部 4 回生)

全国障害者スポーツ大会男子1500mで大会新記録で優勝するなど、陸上競技で顕著な成果を収めました。

【個人(ペア)の部】

中出 すみれさん

(法学部 4 回生)

田邊 裕美さん

(国際学部 4 回生)

全日本学生バドミントン選手権大会女子ダブルス

校友会賞は、学術・文

龍 Ron 小町

福岡県福岡支部「蓮の花つくりとお寺でランチ」



6月4日、西光寺(福岡県飯塚市)にて龍Ron小町のイベントを開催しました。

当日はあいにくの雨でしたが、おしゃべりを楽しみながら、蓮の花のワークショップを行いました。お昼は参加者の皆さんとお弁当をいただきながら、大学時代の話に花が咲きました。

優勝、さらに国際大会で第3位と世界で活躍されました。

【団体の部】

学友会体育局

バドミントン部(女子)

全日本学生バドミントン大学対抗戦で2連覇を達成しました。

学友会学術文化局吹奏楽部(フラインेट四重奏)

山下 愛桜さん

(社会学部 3 回生)

谷出 実羽さん

(農学部 3 回生)

藤長 文花さん

(農学部 3 回生)

佐々木 結衣さん

(社会学部 1 回生)

第49回全日本アンサンブルコンテスト(大学の部)でオールAという最高評価にて金賞を受賞し、全国トップレベルの実力を示しました。

ほとんどの方が初対面でしたが、すっかりうちとけあって楽しい時間を共有できました。

支部の総会などでは、なかなか女性卒業生の参加が少なく残念なのですが、今回のワークショップでは、遠方からも参加してくださり、感謝しております。知り合った皆さんと支部活動にも参画していきたいと思ひます。

今後このような交流の場を大切にし、機会があればまた企画したいと考えております。

(福岡県福岡支部 鷹取祐子)

シリーズ 龍谷大学の 歴史実証⑬

約70年の時を超えて 受け継がれる「菩提樹の絆」

広報部会 村上孝弘



乗船寺境内のインドボダイジュ

の境内地に地植えされる。藤岡義道師(乗船寺・前住職61文卒)によれば、台風直撃された時に一度根こそぎ倒れたこともあったが、直ぐに埋め戻し、以後は毎年の枝の剪定に際して風に

山崎正幸先生が挨拶を行った。この歓談の席で、自坊で育つインドボダイジュが龍谷大学に由来する歴史的な樹木であることが話題となり、一連の「里帰り」の計画が進むこととなる。26年5月23日に農学部三浦勸一教授が乗船寺で苗木の受け取りを行い、6月20日に山崎正幸農学部部長、津田直哉総務部長が乗船寺へ赴き、感謝状贈呈式が行われた。今回の一連の取り組みは、単なる植物の寄贈ではなく、卒業生が守り続けた一株の菩提樹に由来する歴史や伝統が、母校へ還流すると

が進められている。その中心となるのが「Ryukoku Botanical Garden」構想である。29年には観賞用温室の完成が予定されており、インドボダイジュはそのシンボルツリーとして広く公開される計画である。本年7月18日には瀬田キャンパスで記念講演会が開催され、入澤崇理理事長による「仏教と聖樹信仰」に関する講話や山崎正幸農学部長による経過報告が行われ、インドボダイジュをはじめとした植物と仏教文化の深い結びつきがあらためて確認された。なお、余滴となるが、乗船寺の先々代住職であった藤岡義昭師は、瀬田学舎開設に向けた議論が学内で本格化していた頃、本願寺派総長ならびに龍谷大学理事長を務められていた方である。瀬田学舎の開設にあたっては、滋賀県や大津市による土地や資金面での支援が語られることが多いが、本願寺派による助成(寄付金等)の決定なくして、その実現はあり得なかった。この意味においても、乗船寺で育ったインドボダイジュが瀬田キャンパス(2021年度から「びわ湖大津キャンパス」に改称)にもたらされることに、あらためて歴史的な所縁を実感するところである。



乗船寺本堂 藤岡義尚師と山崎農学部部長

◆卒業生が実現した「里帰り」

今回の帰還の発端は、25年7月15日の龍谷大学親和会の保護者懇談会・鹿児島会場の懇親会の席である。同会では、親和会代表として親和会役員・鹿児島県理事の藤岡義尚師(乗船寺住職96文了)と大

◆未来へ受け継がれる龍谷のシンボル

現在、寄贈された苗木は農学部の温室で大切に育成されており、龍谷大学では、これを教育・研究資源として活用するとともに、キャンパスを象徴する存在として位置付ける計画

◆聖樹がたどった70年の旅

寄贈当初、苗木は大宮学



瀬田キャンパス・樹心館でお披露目されたインドボダイジュの苗木

深尾昌峰副学長にインタビュー

瀬田がもつと好きになる未来へ

27年4月、びわ湖大津キャンパスへ

(聞き手：森電樹 16年理了 校友会広報部会)

◆27年4月、瀬田キャンパスは「びわ湖大津キャンパス」へ名称変更され、「環境サステナビリティ学部」と「情報学部」が新設される予定です。まず、今回のキャンパス改革の背景をお聞かせください。

深尾副学長

大きな契機の一つは、社会学部の深草キャンパスへの移転です。瀬田キャンパスをどう活用し、未来へつないでいくのが大事な課題になりました。そこから今回の再編、名称変更、施設整備へとつながっていきました。

◆瀬田キャンパスは、これからどんなキャンパスに変わっていくのでしょうか。

深尾副学長

27年4月に「環境サステナビリティ学部」と「情報学部」を開設することで、キャンパスは4学部体制になります。新棟や寮の整備も計画しています。理系を中心とするキャンパスとして、実験や研究に打ち込む学生に寄り添える環境を整えたい。より研究しやすく、快適で、学生にフィットするキャンパスへ変え

ていきたいと思っています。

◆地域とのつながりも、瀬田キャンパスの大きな魅力だと思っています。今後はどのように連携を深めていきますか。

深尾副学長

今、大学として進めようとしているのが「コレクティブ・インパクト」です。龍谷大学が社会変革のハブになるということを長期ビジョンでも掲げています。その中で瀬田キャンパスは「グリーン・コレクティブ・インパクト」として、大きな役割を担います。大学の知や研究と、地域の市民、行政、NPOなどの力を掛け合わせ、社会課題の本質に一緒に迫っていく。地域と共に歩む瀬田キャンパスとして、社会変革のハブになっていきたいと思っています。

◆4学部体制へ拡充する狙いについても教えてください。

深尾副学長

理系人材の育成、輩出は、今の日本にとって非常に重要です。今回の新しい2学部も、これまで瀬田で積

み重ねてきた学びと研究が土台です。「環境サステナビリティ学部」で扱う地球環境の保全は、農学部や理工学部の学びとも深く関わります。4つの理系学部が掛け算できることに大きな可能性があります。◆「情報学部」と「環境サステナビリティ学部」、それぞれの魅力はどこにありますか。

深尾副学長

「情報学部」は、良質な技術者を養成することに加え、データサイエンスの領域を大切にします。龍谷大学は人工衛星のベンチャー企業と包括協定を結んでいます。人工衛星の生データを瀬田キャンパスで受信し、それを学生が直接触れて解析できる環境を整えることで、地域の防災や安全確保、森や海の自然資源の把握などに活用する学びを広げたいと考えています。自治体や「環境サステナビリティ学部」との連携も視野に入れ、社会や暮らしをより良くする実践的な学部を目指しています。龍谷大学の建学の精神に立てば、どうよりよく生きるのか、どう社会をよりよくしていくのかに迫りたい。単に技術を学ぶだけではなく、人がよりよく生きることの学びの中核を置きたいと思っています。

「環境サステナビリティ学部」は、環境を守ることと経済を発展させることを対立ではなく両立できるものとして捉え、その未来を構想できる人材を育てることを目指しています。従来の環境科学に加え、経営学・経済学の視点を取り入れた文理融合型の学びにより、企業が求める「科学的根拠に基づき環境価値を社会や経済の仕組みに接続できる力」を育成します。環境への取り組みが会計基準でも問われる時代に、科学と社会科学を横断して新しいルールや指標を生み出し、自然保全と経済成長を同時に実現する道を切り拓く―その挑戦に果敢に取り組み魅力ある学部を目指しています。

◆卒業生にとっては、「また瀬田に行きたい」と思えるキャンパスになりそうですね。

「科学的根拠に基づき環境価値を社会や経済の仕組みに接続できる力」を育成します。環境への取り組みが会計基準でも問われる時代に、科学と社会科学を横断して新しいルールや指標を生み出し、自然保全と経済成長を同時に実現する道を切り拓く―その挑戦に果敢に取り組み魅力ある学部を目指しています。

◆卒業生にとっては、「また瀬田に行きたい」と思えるキャンパスになりそうですね。

深尾副学長

瀬田キャンパスでは、バーベキューサイトやウェルカムラウンジなど卒業生が気軽に戻れる空間づくりが進んでいます。人生百年時代、社会人になって再び学びたい方へ大学の門戸を広げ、学び直しの場としても活用してほしいと考えています。また「コレクティブ・インパクト」の構想のもと、卒業生が持つ経験やネットワークを大学と掛け合わせ、社会課題の解決に挑む仕組みも整備中。キャンパスで語り合い、在学生とも交流しながら、大学と卒業生が共に価値を生み出す未来を描いていきます。

◆39年の創立400周年に向け、びわ湖大津キャンパスはどんな姿になっているとイメージされていますか。

深尾副学長

理系を中心とした4学部体制のキャンパスとして、さまざまな主体の人たちが物事を持ち込んでくれる「場」になっていたいと思います。瀬田キャンパス発の社会実装や社会実験が起こり、地域にとってなくてはならないキャンパスになる。そういう中で学生たちがいろんな刺激を受けながら、瀬田キャンパスに行きたいと思って、龍谷大学に来る学生たちがたくさん増えていく状態を作り出したいなと思っています。

89年の瀬田キャンパス開設世代の卒業生に、現在の瀬田キャンパスを見せることができれば、どこが一番誇りでしょうか。

深尾副学長

やはり「龍谷の森」ですね。もともとは開発用地でしたが、希少な動植物がいることに先生方が気づき、守ってこられました。それが今、キャンパスのすぐ横に森があるという稀な環境につながっています。この豊かな自然をベースに、情報学部も環境サステナビリティ学部も発想できています。自然に早くから着目し、それを資本として捉えた先人がおられたから、今の瀬田キャンパスがあります。これは龍谷大学の大きな誇りだと思います。



Green Deck



ロゴスコーポレーションと協定締結した際のキャンパグッズ体験会

氏名 卒年 学部
戸嶋 一貴 16 文卒
吉岡 佑樹 16 文卒
校友会長名 学長名で祝電をお贈りします。
お申し込みは以下のQRコードで、挙式日の1週間前まで。



結婚おめでとうございます



情報学部



環境サステナビリティ学部

特集 龍谷奨励賞受賞者の今

氷上に世界一の物語をつくる

宮本賢二さん（14年度受賞、02年経済卒）

26年ミラノ・コルティナ冬季オリンピックでは、日本フィギュアスケート界の若き才能たちが世界の舞台で躍動した。その一人、銅メダリストの中井亜美選手の振付を手掛けたのが、宮本賢二さん。宮本さんは在学中にアイスダンス日本代表として活躍し、06年に校友会賞を受賞、14年に龍谷奨励賞も受賞された。現役引退後は振付師へ転向し、羽生結弦や荒川静香、安藤美姫、高橋大輔、織田信成、宮原知子、エフゲニー・プルシエンコなどの国内外のトップスケーターの他、様々なアイスショーの振り付けも行いながらテレビ、新聞等での解説も行っている。



私が龍谷大学へ進学したのは、「龍谷」という名前に不思議な魅力を感じたからでした。スケート部の皆さんの熱心なお誘いもありましたが、「龍」という字が持つ力強さや自由なイメージに惹かれた記憶は今も鮮明です。

在学中は競技が中心の生活で、フランスでは世界レベルの技術を学ぶ機会もいただきました。一方で、大学の先生方からは「スケートだけでできればいいわけではない」と厳しく指導いただきました。当時は耳が痛かったものの、競技引退後の人生を支える大切な教えとなり、社会人としての基礎や、人としての在り方を学べたことは大きな財産です。

06年に引退してからは振付師の道を歩み始めました。当時、日本ではまだ珍しい職業でしたが、選手として培った経験を別の形でフィギュアスケート界に還元したいという思いがありました。

振付は動きを考える仕事と思われがちですが、私自身は「物語をつくる仕事」だと考えています。リンクに立ち、その選手の滑りを見ながら音楽を聴く。すると自然と情景や感情が浮かび上がってきます。同じ曲でも選手によって全く違う作品になります。私は最初から型にはめるのではなく、その選手にしか表現できない世界観を一緒に探していくことを大切にしています。小学生やジュニア世代の指導にも力を入れています。無名の選手でも世界のトップ選手でも、向き合う気持ちは変わりません。汗を流して必死に挑戦する姿を見ると、自分ももっと頑張ろうという気持ちになります。

私が目指しているのは、選手が胸を張って「これが世界一のプログラムだ」と胸を張って言える作品を届けることです。結果だけではなく、自分自身を信じて表現できる力を育ててあげたいと思っています。これからは選手自身が去年よりも良い点数や良い順位を得られるように真正面から真剣に向き合い振り付けをしていきたいと思っています。オリンピックの金メダルの振り付けももちろんしたいですが、頑張っている選手達を支えていきたいです。

く学生のみなさまへ、

これから沢山の困難があると思います。真剣に向き合って考えて行動するからこそ得るものがたくさんあります。一生懸命に頑張っていて、色んな経験を積んでたくさん喜びや感動を噛み締めてください。



©N.Tanaka / Shutterstock

伝統文化から生まれる新しい価値

表具師 井上雅博さん（16年度受賞、98年短大卒）

今年4月、龍谷大学深草キャンパスに誕生したWelcome Lounge。（一面に関連記事）その空間で来訪者を迎えるWelcomeボードの制作に携わったのが、京表具師として活躍する井上雅博さんだ。井上さんは、掛軸や屏風などの伝統的な表装技術を受け継ぎながら、現代アートや企業とのコラボレーションにも挑戦し続けている。



私は京都・伏見で表具店「井上光雅堂」を営んでいます。表具師の仕事は、掛軸や屏風、襖などを仕立てたり修復したりするだけではなく、その作品に込められた想いや歴史を受け取り、次の世代へ手渡す役割だと思っています。

龍谷大学で学んだ仏教の教えは、その土台となり、文化財や美術品に向き合う際も、自分が前に出るのはではなく、その価値をどう未来へつなぐかを大切にしています。

近年は伝統工芸の枠を超えた活動にも取り組んでいます。その一つが、スノーボードとスケートボードの両分野で世界の頂点に立った平野歩夢選手とのプロジェクトです。彼が実際に使用したスケートボードデッキを作品として再生し、表具の技術や素材を取り入れながら新たな表現に挑戦しました。

ストリートカルチャーと伝統工芸は遠い存在のように感じましたが、限界に挑み続けるアスリートの姿勢と、何百年も受け継がれてきた職人の技には共通点があり、異なる文化が出会うことで、新しい価値が生まれる。その可能性を強く感じた仕事でした。

また、Welcomeボードの制作にも関わらせていただき、卒業生として母校の新たな顔づくりに携われたことは大きな喜びでした。龍谷大学は長い歴史を持ちながら、常に新しい挑戦を続けています。私自身も伝統を守りながら現代へと進化させることを大切にしており、その思いをボードに込めました。

文化財修復から現代アート、企業とのコラボレーションまで活動の幅を広げてきましたが、根底にある思いは変わらず、日本の伝統文化の魅力を次の世代へ伝え、より多くの人に身近に感じてもらうことです。

表具師は決して表舞台に立つ仕事ではありませんが、人と文化、人と人をつなぐことができる仕事です。その役割を大切にしながら、これからも新しい挑戦を続けていきたいと思っています。

仏教の伝来と共に、日本に伝わってきた表具・表装の技術。単に伝統工芸と聞くと、「古いもの」と捉われがちですが、古いものと新しいものは常に表裏一体だと思っています。革新の連続が伝統を創るという感覚で、現代の人々の生活にも溶け込む作品作りを心がけ、現代の建築様式の中にも表具の技術の素晴らしさを取り入れていきたいと思っています。

夢は人々の心が豊かになる作品作り、人々が居心地の良いと思える空間作りを手掛けていきたいと思っています。



校友総会、今年は大宮キャンパスの黎明館で開催

6月6日、26年度校友総会を大宮キャンパス新棟「黎明館」にて開催しました。

黎明館は龍谷大学付属平安中学校・高等学校（以下、平安高校）に隣接し、心理学部の学びの拠点として活用されています。

総会後には「黎明館ミニ見学ツアー」を実施し、普段は入ることのできない平安高校の食堂も特別に見学。昨年、校友会が寄贈した「第三仏教中学（平安中学）本館」の陶板画をご覧いただき、参

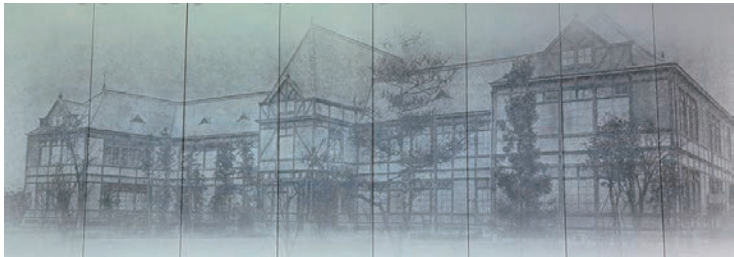


加者の皆さまにも大変好評でした。

その後は、黎明館1階の前田珈琲でランチセットを受け取り、各自が大宮キャンパスの好きな場所で思い思いに昼食を楽しみました。

歴史ある建物に囲まれ、悠久の時の流れを感じながら過ごす時間は、大宮キャンパスならではの魅力。「京都駅に近い立地にもかかわらず、街の真ん中にあるとは思えないゆったりとした雰囲気味わえるのは大宮キャンパスだね」と、参加者はその時間を満喫していました。

下の陶板画は、一九〇九（明治42）年に建築された第三仏教中学（現龍谷大学付属平安高等学校・中学校）本館の様子。



陶板画：第三仏教中学（平安中学）本館

未来の暮らしを、コーヒーからデザインする

小川珈琲株式会社代表取締役社長／CEO 宇田吉範さん
(17年度受賞、93年社会卒)

26年3月、東京・高輪に誕生した「LOGAWA COFFEE LABORATORY 高輪」。約四千㎡の広大な空間に、コーヒーをはじめベーカーリーやジェラート、ライブラリーなど12のラボが集う新しい食の拠点として注目されている。構想段階から宇田さんがクリエイティブディレクターとしてプロジェクトを牽引してきた。単なるコーヒーショップではなく、人が出会い、学び、つながるコミュニティの創造を目指した挑戦だ。小川珈琲の次代を担う経営者として宇田さんは今、コーヒーの可能性をさらに広げる新たな挑戦を続けている。



龍谷大学では、多様な価値観に触れ、人とのつながりや社会との関わりについて考える機会をいただきました。その経験は今の仕事にも大きく生きています。企業活動もまた社会との対話であり、一杯のコーヒーの向こうには生産者や地域、そしてお客様の暮らしがあります。その全てをつなぐことが私たちの役割だと思っています。

入社後、コーヒーバイヤーとして世界の生産地を訪ね、多くの生産者と出会ってきました。コーヒーは農作物です。品質の向上だけでなく、生産者の暮らしや環境問題とも向き合う必要があります。だからこそ、私たちはトレーサビリティやサステナビリティを重視し、生産地からお客さままで責任ある一杯を届けることを大切にしています。また、人材育成にも力を入れてきました。パリスタの世界大会に挑む人材育成の中で感じたのは、技術だけでは人は成長しないということです。大切なのは、自ら考え挑戦する姿勢です。社員一人ひとりが珈琲職人として誇りを持ち、自分らしい価値を生み出せる組織でありたいと考えています。私が小川珈琲で大切にしているのは、「コーヒーを売ること」ではなく、「コーヒーのある豊かな暮らしを提案すること」です。

新ブランド「LOGAWA COFFEE LABORATORY」ではコーヒーだけでなく、食や文化、コミュニティまで含めた体験価値を提供しています。高輪の新店舗は、これまで培ってきた経験や知見を生かした、未来に向けた新たな挑戦です。時代が変わっても、人が集い、語り合い、新しい価値を生み出す場の大切さは変わりません。だからこそ、コーヒーを入口に、人と人がつながる未来をつくりたいと思っています。



コーヒー業界の環境は大きく変化していますが、どんな時代であっても、人の心を豊かにする一杯の価値はなくならないと思います。京都で育まれた小川珈琲の精神を大切にしながら、新しい価値を創造し続け、次の世代へより良い形でつないでいくこと。それが私の使命だと考えています。私がこれからも目指していきたいのは、コーヒーを通じて人と人がつながり、小さな幸せが積み重なる豊かな社会を未来へつないでいくことです。そのために京都から世界へ、日本のコーヒー文化や、人々を思いやる価値観を発信し続けたいと考えています。

若い皆さんには、正解を探すのではなく、自分が本当に大切にしたい価値を持ち、失敗を恐れず挑戦してほしいと思います。その挑戦の積み重ねが、自分自身の人生だけでなく、社会や未来を少しずつ豊かにしていくと私は信じています。

校友会賞25年度受賞

挑戦を重ね、未来へ羽ばたくバドミントンペア

西 大輝さん(25年政策卒)、中出すみれさん(26年法卒)
(BIPROGY 所属)

24年度全日本学生バドミントン選手権大会では混合ダブルスでペアを組み見事優勝し、校友会賞を受賞した二人は、互いを支え合いながら競技力を磨き、龍谷大学の名を全国に広めた。現在は同じ社会人チーム「BIPROGY」に所属し、バドミントンSヘリーグ2025では、そろって新人選手賞を受賞するという快挙を成し遂げた。学生時代に培った力を礎として、社会人となった現在もなお成長を続け、さらなる活躍を遂げている。



与えているのでしょうか。

中出選手は今年から社会人としてのキャリアを歩み始めました。女子ダブルスで着実に成果を重ね、国際大会での経験を糧に、より高いレベルを目指し続けています。「支えてくれる人がいるから頑張れる」と話す姿は、競技だけでなく人とのつながりを大切にする彼女らしさそのもの。学生時代から変わらないその誠実さが、社会人としての成長にもつながっています。

二人に共通するのは、龍谷大学で育まれた「挑戦し続ける力」を今も大切にしていること。勝敗だけにとらわれず、競技を通じて自分を磨き、周囲への感謝を忘れない姿勢は、龍谷大学が大切にしている「知・徳・体」の精神を体現しています。社会に出てからもその姿勢は揺らぐことなく、後輩たちに勇気と希望を与え続けています。

西選手より、

今後は、バドミントンを通じて競技力だけでなくコミュニケーション能力をさらに磨き、信頼される社会人へ成長していきたいと考えています。また、自分の好きなことや新しいことにも積極的に挑戦し、視野を広げていきたいです。夢はオリンピックに出て金メダルを獲得すること。学生の皆さんには、今しかできない経験を大切にしてほしいと思います。勉強や部活動、アルバイトなど、どんな経験も必ず将来の自分の力になります。失敗を恐れず、挑戦を続けてください。その積み重ねが、自分らしい未来につながると 생각합니다。

中出選手より、



右が中出さん

今後も競技に真摯に向き合い、世界で戦える選手に成長したいと考えています。競技を通じて自分自身を成長させることはもちろん、応援や支えてくださる皆さんへの感謝の気持ちを結果で伝えられる選手になりたいと思います。

学生の皆さんには、目標に挑戦し続ける大切さを伝えたいです。思うような結果が出ない経験も必ず自分の力になります。失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦できる貴重な時間です。積み重ねを大切にし、自分を信じて前向きに進んでください。皆さんの活躍を心から応援しています。



煩惱とクリエイティビティ



まとめる煩惱
(WEBマガジン)
はこちらから



過去回オンデマンド
配信はこちらから



7月4日、第13回「煩惱とクリエイティビティ」トークイベントを開催しました。ゲストは、*こみゃくの生みの親として知られ、大阪・関西万博や東京2020大会のクリエイティブディレクター・引地耕太さん。仏教ナビゲーターとして龍谷大学法学部教授・能美潤史先生を迎え、異なる領域の二人による対談が大いに盛り上がりしました。

引地さんが語る「煩惱は創造の源泉である」という考え方は、多くの共感を集めました。満たされない渇きや欠落が問いを生み、創造を前へ進めるという視点は、クリエイティブに携わる人だけでなく、日々の仕事や生活に向き合う参加者の皆さんに新鮮な気づきを与えました。

また、能美先生との対話では、仏教の教えが現代の創造や仕事のあり方どのように重なるのかなど意見が交わされ、参加者からは「仏教をこんなに面白く感じたのは初めて」「もっと学んでみたい」という声が多く寄せられました。専門領域の異なる二人が交わることで生まれる新しい視点に触れられる、充実した時間となりました。

【キーワード】

- ① 欠けから生まれる創造力
- ② 満たされない渇きや欠落が問いと創造の起点となる。
- ③ 三毒(さんどく)は創造のエンジン
- ④ 貪(とん)・瞋(しん)・痴(ち)が渴望・逸脱・誤読として創造を前へ進める力。
- ⑤ AIは問いを持てない存在
- ⑥ 渇きや煩惱を持たないため、創造の起点となる問いを生めない。
- ⑦ 自利と利他の中道
- ⑧ 個人の渇きと社会の願いが重なる地点を探すことが創造の核心。
- ⑨ 煩惱を耕すクリエイティブ
- ⑩ 刺激ではなく土壌を育てる「耕す」発想が未来の創造を支える。

*「こみゃく」とは、大阪・関西万博の細胞モチーフの非公式アート作品。SNSで話題化。

Pick up!! SNS



大分県支部「大分県支部から相撲部へ、21年ぶりの横断幕を寄贈」

先日、大分県支部の有志の皆さまより、本学相撲部へ横断幕をご寄贈いただきました。この横断幕は、今から21年前に開催された「全国大学選抜相撲宇佐大会」に出場した際、大分県支部の有志の方々から贈っていただいたものです。その後、所在が分からなくなりましたが、大分県支部の陽田事務局長のご自宅で大切に保管されていたことが判明し、このたび再び相撲部へ届けられました。受け取った主将は、ちょうどこの横断幕が贈られた年に生まれた世代とのこと。時を超えて、相撲部への思いのこもったバトンが新たに受け継がれました。

詳細はコチラ



キャンパスで見かけたがんばる学生さん「落語研究会」

＊連続企画★校友会事務局から落語研究会のお2人にインタビューさせていただきました！

■お名前を教えてください。

文学部3回生の平原隆之介です。学術文化局落語研究会所属、高座名を「きぬ乃家小次郎」と言います。よろしくお願いいたします。

■大学で取り組んでいることは？

上方落語と三味線に取り組んでいます。一番の思い出と言えば、校友会6支部主催の「京阪神地域支部合同龍大寄席」の前座で出演させて頂いた事です。晴れ舞台にふさわしい、本当に貴重で楽しい経験を積めたと感じています。

■「落語研究会」に入部をしたきっかけは？

部活見学の二日目に、先輩の誘いきっかけに入部しました。気づいたら入部届を書かされた!?と、当時は困惑しておりましたが、今となっては無理やりにでも入部へと引っ張ってくださった先輩のアツい情熱に感謝しています。

■これから取り組んでみたいことは？

プロの落語家になりたいと思っています。まだまだ落語界については知らないことが多すぎるので、勉強の毎日です。今はとにかくたくさんの方の寄席へ足を運び、本当にプロになるための覚悟をもって取り組んでいます。

＊将来に向けた真剣な眼差しでお話しいただきました。これからの活動を応援しています。

詳細はコチラ



フォローをお願いいたします／
@ryudaiochiken
龍谷大学 落語研究会



兵庫県・但丹支部「3月7日 ご縁めぐり・バスツアー」

昨年10月に新たに設立された兵庫県・但丹支部が、初めての支部事業として、京都のご縁を巡る「ご縁めぐり・バスツアー」を開催しました！
まずは深草キャンパスへ。顕真館での参拝から始まり、後半はまさに「巡り合わせの連続」でした。壬生寺では、校友の松浦貫主より、年に5日しか公開されない本堂を直々にご案内いただく贅沢なひとときを。さらに聖護院門跡では、ご多忙の中にもかかわらず、校友である宮城門主自らが温かく迎えてくださいました。各所でいただいたご縁印とともに、龍谷大学の絆と深いご縁を再確認する一日となりました。

詳細はコチラ



校友ご縁めぐりリアルイベントin静岡「5月31日 ご縁ウォーキング」

当日は、校友にゆかりのある寺院を2か所巡り、「ご縁」をテーマにしたご法話を拝聴。それぞれの寺院に設置している「ご縁印」の押印も行いました。その後は、静岡県支部主催の「龍谷大学心の講座 in 静岡」に参加し、学びと交流を深める一日となりました。参加者の皆さんは、寺院を巡りながらあらためて人と人とのつながりやご縁の大切さを感じられた様子で、終始和やかな雰囲気の中でイベントを終えることができました。ご参加いただいた皆さま、受け入れにご協力いただいた法伝寺様・教覚寺様、並びに静岡県支部の皆さま、ありがとうございました。

詳細はコチラ



広島県支部主催 龍Ron小町「6月20日 イタリアン料理×自家製野菜」

久しぶりの福山市開催となった今年の広島県支部総会。参加のきっかけ作りとして、総会前のランチタイムに龍Ron小町を企画しました。懇親の場では、趣向を凝らした素晴らしいイタリア料理をいただきながら、食材についての新たな発見や学びを得る貴重な機会となりました。ズッキーニやケールなど多彩な野菜に加え、鱈(スズキ)や広島熟成鶏など、素材の魅力を最大限に活かした身体に優しいこだわりの品々が振る舞われました。料理を囲むことでさらに会話が弾み、心身ともに癒される有意義なひとときとなりました。少人数だからこそ深く密な親睦を図ることができ、今後の支部活動の活性化につながる有意義な交流となりました。次回も企画しますので、一緒に懐かしい話などをしながら、楽しい時間を過ごしましょう！

詳細はコチラ



龍志会主催「6月23日 学生のための土業・資格相談会」

深草キャンパスにて、「学生のための土業・資格相談会」を開催しました。当日は、少し緊張した様子で相談に訪れる学生も多く見られましたが、さまざまな土業に就く龍志会会員との会話が進むにつれて、自然と笑顔が見られるようになりました。資格取得に向けて勉強を進めている学生はもちろん、「どの資格を目指せばよいか迷っている」という学生まで、幅広い相談が寄せられ、中には1~2時間にわたり熱心に相談する学生もいました。相談を終えた学生たちは、将来へのヒントや新たな目標を見つけた様子で、満足そうな表情で会場を後にしていました。また、龍志会の会員からも「開催して良かった」「学生の力になれる貴重な機会だった」といった声が多く寄せられ、来年度以降も継続して開催していきたいという意見が共有されました。学生と卒業生がつながる、実りある一日となりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました！

詳細はコチラ



もっと読みたい
方はコチラから



読み物コンテンツ
校友KIKOU





社会学部 教授
井上見淳 (01 年文院了)

コラム

今も使える
仏教用語

「報恩」

龍谷大学では、親鸞聖人の誕生日である降誕会(＆創立記念日)の5月21日と、また親鸞聖人のご命日である「報恩講」の10月18日とを、共に全学休講にして法要参加を呼びかけています。報恩講とは親鸞聖人への報恩の思いをもつ者たちの集まりという意味ですが、聖人自身が報恩に生きた方でした。

とところで新年度が始まった4月や、夏休み明けの9月には、あれだけ目を輝かせていた学生が、前期だと6月あたり、後期だと11月あたりに中だるみすることがあります。もちろん全員ではありませんが、大学生活に妙に慣れてしまふのか、疲れてしまふのか。はたまた、他に楽しいことがありすぎるのか、講義がつまらないのか……。

時に教室全体にまったりと重たい雰囲気漂っている時があります。その時に私は「報恩」とはどういう意味か尋ねることがあります。学生はたいい恩返しの意味だと答えますが、「恩返し」と「報恩」とは、仏教では分けて考えます。

「恩返し」といえば、「鶴の恩返し」。傷んだ鶴が助けてもらった恩を、自分の羽で織った美しい布を渡すことで返そうとした、まさにそれです。これはこれで尊いですが、角度を変えれば「借りを返す」という言葉に似ていて、「恩を返す」までの話だとも言えます。

「恩」とは「恵」だと説明している辞書があります。つまり自分の人生に恵まれていたのものは何だったか、そのことを心に思う時、恩が生まれるというのしょう。そしてその恩を蒙った方々がどうすれば喜ばれるのか、また悲しまれるのか。そこにおのずから報恩という生き方が出てくるのです。

私はかつて、共に楽しく過ごしてきた真面目な学生が、4年生の年が明けた最後の1月に退学することになったと報告してきたことがあります。退学の事由は家の経済問題でした。動揺する私に、学生の方が気丈に「家族で何度も話し合った結果だから自分は大丈夫だし、先生には感謝している。ゼミは楽しかった」と電話で語っていました。

中だるみしている学生達に、その時のことを紹介しつつ、「人は足りなかったものはさかんに探すけど、仏教は恵まれていたものは何だったのか、その視点を教えます。君たちは、いまここに座って授業を聞いているという状況の背後に、どれだけ多くの思いと苦労があったのか。そのことを考える責任があると思うよ」と語る時、学生たちのまなざしに活力が戻ってくるのです。

6月21日、東大寺総合文化センター金鐘ホールにて、設立25周年記念総会および懇親会を開催しました。総会では、田中代表幹事(支部長代理)からこれまで支えてくださった会員の皆さまへの感謝が伝えられ、今後のさらなる発展に向けて決意を新たにしました。

設立10周年を記念して「龍谷大学 心の講座」KOEを開催いたしました。第1部では、本学OBで滋賀県立大学名誉教授、NHKなどの番組にも多数出演されている中井均氏をお迎えし、「お城のたのしい歩き方」と題して、初心者にもわかりやすい「城めぐり」を紹介いただきました。第2部はエッセイストの高田都耶子氏が「父からの贈りもの」と題し、父・高田好胤師(46

文卒・薬師寺元管主)の素顔を家族の目線からユーモアたっぷりに語られました。今回は一般参加者が約半数を占め、大学の認知度向上や新たな校友の獲得など、有意義な成果を得られました。懇親会には両講師も出席され、会員同士の温かい交流の場となりました。



支部の周年事業
奈良県支部(25周年)

続く落語会では、落語研究会の現役学生による勢いある高座と巧みな話芸に会場が笑いに包まれました。久々の開催となった親睦懇親会は、キーボードとヴァイオリンの華やかな生演奏の中、思い出話や近況報告に花が咲く和やかな場となりました。節目を多くの会員の皆様と祝うことができ、大変意義深い一日となりました。

阪神支部(10周年)



福岡県・北豊支部(10周年) 7月4日、設立10周年記念総会および記念イベントを開催しました。トークイベントでは、地元出身のイラストレーターで俳優のリリー・フランキーさんから、小倉で過ごした幼少期の思い出や地元への深い思い、大学時代のエピソードなどがユーモアたっぷりに語られ、会場は終始和やかな雰囲気になりました。

続いて福岡県福岡支部と合同で懇親会を開催しました。冒頭では龍谷大学応援指導部によるエールが送られ、会の中盤では、毎年恒例となっている「YES!NOクイズ大会」を行い、大いに盛り上がりました。



大きな節目となる設立10周年を多くの皆様と祝うことができ、心に残る記念事業となりました。

続いて福岡県福岡支部と合同で懇親会を開催しました。冒頭では龍谷大学応援指導部によるエールが送られ、会の中盤では、毎年恒例となっている「YES!NOクイズ大会」を行い、大いに盛り上がりました。



創部60周年記念弦友会第3回演奏会を、京都コンサートホールにて開催しました。約1年の練習期間、5月には琵琶湖での練習合宿を行うなど全世代で準備を進めてきた演奏会、ステージには創部当初のOBから現役学生まで総勢80名が集結。かつて音楽に打ち込んだ歴代部員たちが、時を超えて一つのハーモニーを紡ぎ出しました。満席の会場では当クラブ出身で25年度龍谷奨励



第3回 仏教パズル

【問題】下のリストの漢字を使って、矢印がつなく目に漢字を入れながら四字熟語をつくって下さい。残る漢字を使って最後にゴールに入ることが出来ます。

「出題」小川信正

◎第2回パズル(102号)の答え
「顕真館」

◎第3回パズル(103号)の答え

正解者の中から抽選で20名様に龍谷大学校友会記念品をお送りします。◎応募締め切り：11月末日

龍谷大学校友会事務局
〒61285 京都市伏見区深草塚本町67
ハガキ送付先

答えが分かった方は下記QRコードまたはハガキ(氏名、卒業学部、住所は必須、近況報告などをご応募ください)をお送りください。

雲 流 地 火 鳥 月 月 地 想 外 合 縁 慶 宿 慮 謀 山 谷 谷 大 諸 常 我 夢 里 霧 濁 悪 道 人 一 乱 惜 身 心 立 一 路 平 安 穩 無 無 天 行 命 花 不 五 心 世 中 深 奇 学 縁 風 水 遠 幽 事 龍 遠 奇 花

仏教に学ぶ

「〈弱さ〉がつむぐコミュニケーション」

2026年度「第1回龍谷大学心の講座」 2026年4月18日(土)開催より

龍谷大学心理学部教授
の 野呂 靖
せい 靖



プロフィール
龍谷大学大学院文学研究科博士課程修了、文学博士。専門は仏教学。
龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター長。認定NPO法人京都自死・自殺相談センター理事。
著書に『はじめて出会う仏典のことば』(本願寺出版社)、
『東アジア仏教思想史の構築』(共編著、法蔵館)、
『高山寺本 明恵上人 夢記 訳注』(共編著、勉誠社) など多数。

■弱さはつながりの入口
私たちは日々の暮らしのなかで、思うようにいかない自分や、心の重さに押しつぶされそうになる瞬間を抱えています。一般には「弱さ」は否定すべきものと捉えられがちですが、仏教の視点から見れば弱さこそが他者とながら、支え合いながら生きるための大切な契機となります。

■居場所をつくるということ
私は仏教思想の研究と並行して、死にたい気持ちを抱える方々や大切な人を自

死で亡くされた方の相談活動に携わってきました。年間四千件に及ぶ相談は、社会の中で孤立し、誰にも言えない苦しみを抱える人々の声です。

その活動の根底にあるのが「居場所をつくる」という考え方です。同じ社会を生きる仲間として向き合い、安心して悩むことのできる居場所こそ、生きている意味がないと感じる人にもう少しだけ前を向いて歩む力を与えるものだと思います。救う側、救われる側という上下関係ではなく、苦悩を抱えた仲間同士として、「弱さ」や「思い通りにいかなさ」に向き合うという姿勢が大切です。

■「死」をタブー視しないまなざし
近年、自殺をめぐる世界の見方は大きく変化しています。かつては「個人の選択」とされてきた自死は、現在では「追い詰められた末の死」と捉えられ、 Δ EOも「自殺をタブー視すること

は逆効果である」と明言しています。日本でも二〇〇〇年代以降、自殺対策は「個人の問題」から「社会の問題」へと転換しました。

興味深い研究報告があります。アメリカ・ゴールドマン・サックスの調査によると、自殺を調べる人々の調査した精神科医の報告によれば、彼らは身につけているものを次々と捨て、身軽になっていく一方で、最後まで手放さないものがあるといいます。それは「携帯電話」だということです。すべてを捨てようとする状況にあっても、誰かとのつながりこそが最後まで求めているものだと思います。逆にいえば、人が支える最後のはたらくとは「つながり」なのです。

■仏教が示す「自立」
自立という言葉があり、一人ですること」を指します。しかし仏教が説く自立とは、むしろ「関係の中で立つこと」です。私たちは多くの支えに生かされ、他者との関わりの中で生きている。これを自立というのです。

情報科学を専門とする研究者が考案した「弱いロボット」をご存知でしょうか。ゴミ箱型のロボットで、センサーでゴミを見つけて近づくものの、吸い込み口がないため自力では拾えないというロボットです。ゴミの前で止まり、ライトを光らせて「ここにゴミがあります」と知らせるだけ。拾うのは周囲の人間です。その先生はこれを「弱いロボット」と呼びます。強いロボットがすべてを自力で完結させるのに対し、弱いロボットは人の助けがなければ機能しません。しかしその「弱さゆえに、人が自然と手を差し伸べ、ロボットとの間に豊かなコミュニケーションが生まれます。弱さは欠点ではなく、他者と共に行動し、関係を育む契機となる——弱いロボットはそのことを象徴的に示しています。

■「あなたにいてほしい」という呼び声
ある時、私たちの事務所に一人の青年が相談に訪れました。仕事を失い、「自分が生きていても意味がない」と絶望していました。事務所にいるボランティアたちと作業をするなかで、「あなたがいてくれて助かった」「ありがとう」と口々に声をかけられたことをきっかけに、もう少しだけ生きる方向に心が向いたという出来事がありました。彼をとりまく状況や境遇は何も変わりませんが、「誰かに必要とされている」という実感、ここにいてよ」とが、実は大きな意味をもつことを感じました。

■本願の大地に立つ——弱さを抱えて生きる安心
親鸞聖人は「教行信証」後序で、阿弥陀仏のはたらきを「本願の大地」と表現しています。人生でつまづいたとき、弱音を吐くときであっても、変わらずその大

編集後記

本号では深尾昌峰副学

長から、27年4月にキャンパス名称が変更される「びわ湖大津キャンパス」に「環境サステナビリティ学部」と「情報学部」が新たに設置される計画についてお話しを伺いました(3面)。

社会学部の1期生であつた私は、キャンパスの移転を少し寂しく思っておりましたが、環境への意識の高い近江の地で「仏教SDGsの推進」を掲げる龍谷大学がますます発展する未来を創造し、期待で胸が膨らむように感じました。

校友会報では、これからも大学の今と活躍する校友の姿をたつぷりとお伝えしてまいります。

(校友会副会長 荒川林太郎)

校友のお店
カフェ & クック
敦館

日替わりランチのレシピは数百種類
もつと美味しいものをと追求し続け
て34年

のみや あつし
二宮 敦さん
(85年法卒)

校友会ホームページ
「校友 KIKOU」より



クック」。高校生らしき若者が無心に食べ進め、工事関係の方々は大盛ランチをもちもりと。体育会系の大学生はさらにその上をいく特盛を気持ちよく平らげています。

看板メニューの「トンカンランチ」。ハンバーグと選べる1品、サラダ、お味噌汁、ご飯がついて千百五十円。食後のコーヒーはなん

と100円(※卒業生特典はこのコーヒーが無料!)。満足感のあるボリュームながら、すべてがとても美味しい。付合わせのサラダはとても繊細で、選べる一品の「豚肉のしょうが炒め」はこれだけでご飯が進みます。そして人気のハンバーグはふわりとまろやかで、こだわりのソースがやはりすごい。最後まで何

店づくりの土台になったそうです。

現在の場所で「カフェ&クック」を開店したのも、人との縁がきっかけでした。開店当時は工場が並ぶ地域で、今のように住宅街や大学、ショッピングモールがあるわけではありません。それでも工場の社員の方々が足繁く通い、少しずつ地域に根付き、地元の人気店になっていきました。

「二宮の人気は？」と尋ねると、「ハンバーグでしようか。」と控えめに笑う二宮さん。ソースへのこ



看板メニューのトンカンランチ

カフェ & クック敦館
大阪府茨木市南安威1-2-38
JR 茨木駅から市バス
茨木サニータウン行乗車
耳原で下車徒歩2分
TEL 072-641-5559
営業時間
8:00~15:00、17:00~20:00
定休日：月曜日

がこのお店に自然と集まるのも、同じ理由だと感じました。